第6－5号

耕人

『耕人塾』
塾長　木村　民男
平成29年10月14日（土）

日本の伝統文化について

『耕人塾』の指導指針に「日本の伝統文化を体験させ、自然や郷土を愛する心を育て、礼儀作法を身に付けさせる」があります。それは『耕人塾』のテーマである「世界に誇れる石巻地域にしよう」を実現するための大きな柱に一つになっています。今回は「日本の伝統文化」について、その意味と茶道で学んできたことについて書いてみたいと思います。

「日本の伝統文化」とは、日本という国が長年にわたって形成してきた思考や習慣、行動様式のことです。1899（明治32）年、新渡戸稲造は外国人から宗教教育がない日本ではどのようにして道徳教育を行うのかと問われ即答できませんでした。そのことがきっかけで外国人に日本人の精神性を理解させたいという願いから「武士道」を著したのです。その中で日本人が古来大切にしてきた「義・勇・仁・礼・誠・名誉・忠義」のことなどが具体例を挙げて述べられています。

1922（大正11）年に来日したノーベル物理学賞のアインシュタインは次のような言葉を残しています。**「私は地球上にこのように謙虚にして品位ある国民が存在することに深い感銘を受けた。私は世界各地を旅行してきたが、いまだかつて、このような気持のよい国民に出会ったことがない。日本の自然や芸術は美しく、深い親しみを覚える。」**そのような思いは、明治・大正期の訪れた喜劇王チャップリンや多くの外国人が感じています。しかし、最近日本の伝統的な良さが失われつつあると危惧しています。自然や人を大切にすること、思いやりの心や親切な行い、慮（おもんばか）る心や奉仕の実践などをもっともっと広めていきたいと思っています。『耕人塾』での実践活動「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」もその一環です。

今日の研修は「茶道」の体験ですが、表千家教授の石田邦子先生は毎年『耕人塾』塾生のために一流の掛け軸、一流の茶器、一流のお抹茶、一流の和菓子を持参し、何人ものお弟子さんをお連れしてお出でいただいています。昨年の講話で「和敬清寂（わけいせいじゃく）」という言葉についてのお話をいただきました。石田先生から「この言葉にはお茶の神髄が含まれており、茶室に入った人たちが、和やかに相手のことを敬うということです。茶碗の正面を外して飲むということは、茶碗をつくった作家さんが一番見てほしいところ外すということであり、作家さんを敬うということです。茶室に入ったら、清い心で相手のことをよく思い出して、その清い心でお茶をいただくということが『和敬清寂』の心です。」と話されました。掛け軸や生け花にしてもその季節にあったものを準備していただいて、自然と一体になった気持を味わうことができます。日本の伝統文化である「茶道」を通じて、日本人が長い歴史の中で育んできた自然や人を大切にする心や自分を静かに内省することの素晴らしさを体験してみましょう。何かを感じとることができると思います。

「いじめ」について

先日ある高校の１年生男子がいじめられているということで相談に来ました。１か月ほど前から同級生数人に悪口を言われたりからかわれたりしていたのですが、最近殴られたりけられたりするようになったそうです。幸い被害にあった高校生は親に相談し、親が学校に事情を話したので解決に向かっているそうです。みなさんの学校でもいじめがあるかもしれませんが、弱い者をいじめるということは恥ずかしいことであり、卑怯なことです。何よりもそのようなことでしか自分を主張できないということは情けないことです。弱い者いじめは、学校でも社会でも許してはだめなのです。明るい挨拶や思いやりの言葉があふれる学校や社会をつくりたいですね。